阿寒湖温泉市街地における商店街修景に関する提案について

千葉 忠弘* 館田 彩** 福崎 圭都***

Proposal for Shopping Street Landscaping at Lake Akan Town

Tadahiro CHIBA Aya TATEDA Keito FUKUZAKI

Abstract － The purpose of this report is to propose the landscaping idea of the shopping district at Lake Akan town. We are conscious of continuity and unity of the landscape, and creat the color simulation of "Kouun no Mori" shopping street. Most of residents who respond to the questionnaire like white walls, green canopies, and walls marked the Ainu pattern. Then, the authors set the basic concept, creat many landscaping ideas, and consult residents. We present a proposal of high evaluation, but agreement of the residents can not be obtained.

Key words ： Landscaping, Criteria of Exterior Design, Color Simulation, Lake Akan

1. はじめに

阿寒国立公園阿寒湖畔集団施設地区（以下本地区）は，2010年度に阿寒湖温泉らしい景観づくりガイドラインを策定し，現在，阿寒湖温泉地域景観協議会（以下協議会）が中心となって，細部のルールづくりを検討している．本研究室では，本地区の景観問題を把握し景観形成上の提案を行うために，以下の調査研究を行ってきた．

･2010年度:メインストリートを対象として建築物の外観の測色

･2011年度:景観をリードしていると思われる施設の色彩決定過程のヒアリング

･2012年度:景観上問題とされる公共サインの実施調査

本報告はこれまでの成果を踏まえ，未だ具体化していない商店街の修景案を提示することを目的としている．提案対象は幸運の森商店街である．

本報告は以下の手順により進めた．

(1)環境省管理計画の内容を把握し,対象地域の景観問題を文献や現地調査により行う．

(2)修景計画づくりの検討資料とするために,複数の外観色彩シミュレーションを作成する．

(3)そのシミュレーションに対して地元住民へのアンケートを実施して分析する．

(4)次いで基本コンセプトを設定し,修景のための試案を作成する．

(5)複数の試案に対して,地元住民へのアンケートを実施して分析する．

以上より，商店街修景の方向性を検討する．

2. 地域概要

2－1 阿寒湖温泉街地域について

1934年に阿寒湖地域を国立公園に指定した．1983年には自然公園法管理計画によって厳格に規制し始めた．環境省は2008年より3カ年かけて阿寒湖温泉景観形成促進事業（以下環境省事業）を実施し，街並み景観づくりの方向性を示すガイドライン案を取りまとめた．

釧路市は環境省事業をサポートしたり，2011年には協議会を設立し良好な景観づくりに取り組んでいる．

2－2 各種計画書の内容と景観規制

建築物や広告物は，環境省管理計画によって規制されている.景観ガイドラインは,地域で取り組むこと,守るべきルールなどをまとめたもので，新たに規制を加えたものではない．現状の商店街は管理計画で規制されているが，詳細な基準はない．特にサイン類のデザイン，店舗デザインは規制されていない．

2－3 商店街の景観の概要と問題点

調査対象である商店街は，屋根の形や色彩，建築物の高さ，壁面の色彩が管理計画の規制外のものが目立

* 釧路高専 建築学科
** 同 2013 年度卒業生
*** 同 2014 年度卒業生

つ．店先のテントのデザインや色彩は，規制がないためばらついている．本研究室の色彩調査(文献3)では，赤・橙・黄色・黄緑・緑の色相に集中しており明度・彩度の高低差が激しい．彩度8以上のものも見られた．

景観づくりガイドラインは策定されたが，商店街に対する景観計画は具体化していない．特に⑴商店街全体でどのような景観を目指しているのか明確な目標がない．⑵商店街全体の景観の基準がない．⑶店舗の外観デザイン（形態，色彩，素材）や，公共及び民間サインの整備方針や基準がない．などが問題である．

３．外観の色彩シミュレーション

景観の統一性が感じられない「幸運の森商店街」を対象として，外観の色彩シミュレーションをCGソフトで行った．シミュレーションは2つの店並みを対象として計22パターン(写真1)を作成した．地元まちづくり団体にこれらを郵送(注1)で提示し，2013年12月アンケートにより意見を求めた．

３-１　アンケート回答者の属性

調査依頼した団体は，阿寒湖畔在住の女性限定のボランティアグループである．28名の回答者は，20歳台～60歳台までバランスよく分布する．居住歴は20年以

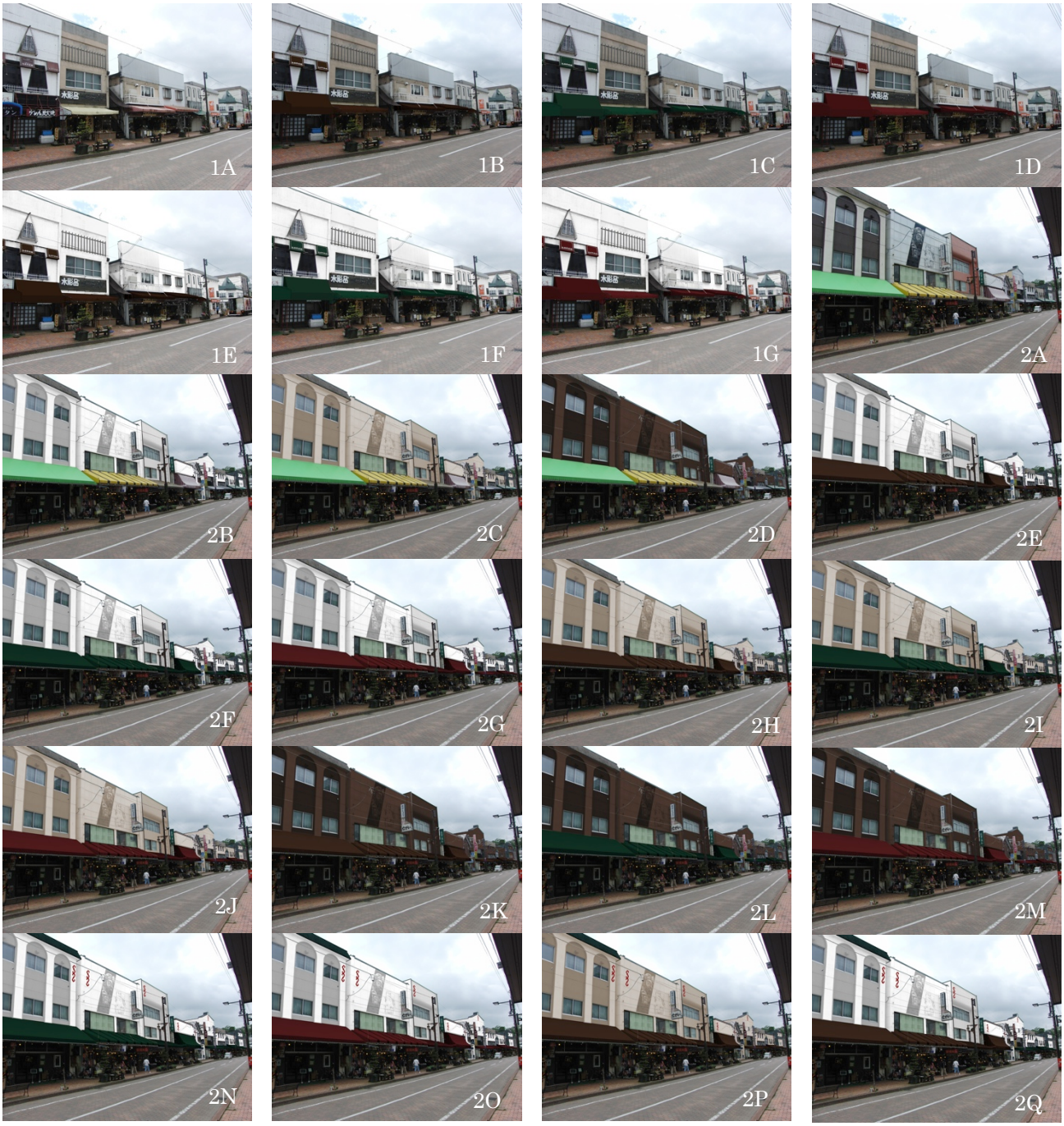

写真１　現状（1A,2A)と色彩シミュレーション一覧

上9人，10〜19年5人，10年未満6人であった（未回答8人）．職業は7つの職種があり，商店街（土産物店・民芸品）で働いている5人を含む.

3-2 商店街の景観の重視度合

『評価基準』は次の5項目を設定した.

「商店街としてのまとまり,連続性,統一感(以下イ)」

「景観としての心地よさ，美しさ（以下ロ）」

「周辺の自然景観との調和（以下ハ）」

「個性ある景観，阿寒湖温泉らしい景観（以下ニ）」

「にぎわい，活気ある商店街景観（以下ホ）」

この基準に対する『重視度合』を次の評点で回答してもらった.

「4:とても重視する」「3:すこし重視する」「2:あまり重視しない」「1:まったく重視しない」

表1の重視度合の回答傾向を見ると，ロが平均3.8と最も高く，ハとニが3.5とやや低い．評価割合はほぼ同割合であり，評価基準としておおむね全てが重視されている.

3-3 評価分析の方法

現状および22パターンの色彩設定を表2に示す. このパターンに対して，前述の『評価基準』の観点で，回答者に次の4つの評点を選択してもらった.

「4:とてもそう思う」「3:どちらかと言えばそう思う」「2: どちらかと言えばそう思わない」「1:まったく思わない」

回答者ごとに評価基準の割合が異なる. このことを考慮し，回答者ごとの総合点[注2]を算出した.

図1は,評価基準ごとの平均値と総合点の平均値を示す．また22パターンを色彩設定方針によりグループとしてまとめ，平均値を算出したものを記す.

3-4 評価分析

図1，表2から以下の点が明らかとなった.

1A,2Aは現状の商店街であり，どちらも総合点が50を下回る．1B-1C-1Dは壁面を現状，テント色を変化させたもので，総合点は比較的低い.

1E-1F-1Gは，1B-1C-1Dのテント色に，壁面のみを白色系に変えた．白色系としたことで全体に明るくなり綺麗に見える．白い壁面に緑のテント（1F）が70.4と高い.

2B-2C-2Dはテント色を現状，壁面色を「白色系・ベージュ系・茶色系」に変えた．この色彩設定グループの平均点は51.5と最低である．壁面色だけを統一しても，ばらばらのテント色に負けてしまう.

2E-2F-2Gは1E-1F-1Gと同じ色彩設定にし，壁面色を白色系とした．白い壁面と茶色のテント（2E）が比較的高く，色彩設定グループの平均点は65.0とやや高い.

表1　重視度合の平均点と評価割合(%)

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	計
重視度合	3.6	3.8	3.5	3.5	3.7	18.0
評価割合	19.9	20.8	19.4	19.6	20.3	100

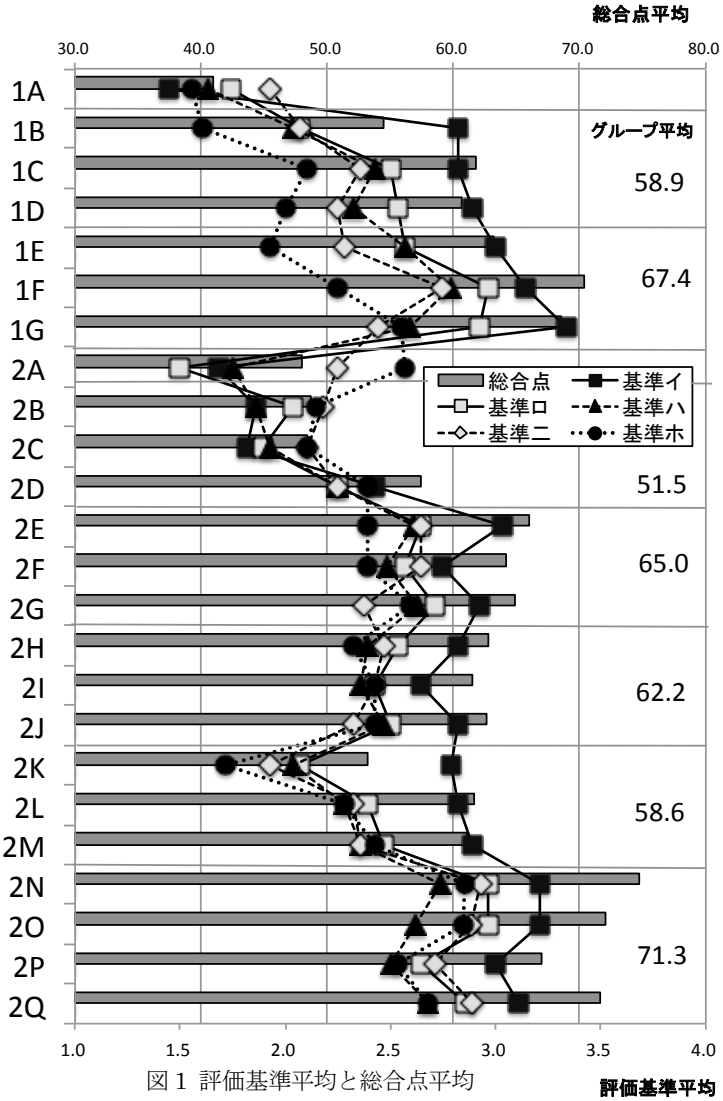

図1 評価基準平均と総合点平均

表2　色彩設定方針

色彩設定	マンセル値
現状	
1Aを対象として壁面は現状、テントを茶(1B)・緑(1C)・赤(1D)にした	テント 茶（0.6Y/2.2/1.7） 緑（6.9G/2.2/2.7） 赤（0.1YR/2.3/3.4）
1Aを対象として、壁面は白色で、テントを茶(1E)・緑(1F)・赤(1G)にした	壁面 白色（8.2PB/9.9/1.4） テント 1B-1C-1D同値
現状	
2Aを対象として、壁面を白色系(2B)・ベージュ系(2C)・茶色系(2D)にし、テントは現状にした	壁面 白色系（8.0PB/9.7/1.4） ベージュ系（N7.7） 茶色系（6.0YR/3.0/1.3）
2Aを対象として、壁面は白色系で、テントは茶(2E)・緑(2F)・赤(2G)にした	壁面 2B同値 テント 茶（8.3YR/2.5/1.6） 緑（0.3BG/2.0/2.6）
2Aを対象として、壁面はベージュ系で、テントは茶(2H)・緑(2I)・赤(2J)にした	壁面 2C同値 テント 2E-2F-2G同値
2Aを対象として、壁面は茶系で、テントは茶(2K)・緑(2L)・赤(2M)にした	壁面 2D同値 テント 2E-2F-2G同値
2E-2F-2G-2Hを対象として、壁面にアイヌ文様を加えた	壁面 2E-2F-2G同値 2H同値 テント 2E-2F-2G同値

2H-2I-2Jは　壁面をベージュ系とし，上記同様にテント色を変えた．白い壁面の色彩設定と比べ，平均点が62.2と低い．

2K-2L-2Mでは壁面を茶色系とし，上記同様にテント色を変えた．トーンの低い茶色を選び，商店街の街並みを少し暗くした．壁面とテントの色が一体化して2Kは53.1と低い．

2N-2O-2P-2Qは2E-2F-2G-2Hと同じ色彩設定にし，阿寒湖畔の特徴ともいえる“アイヌ民族”の文様を全ての壁面にワンポイントとして加えた．阿寒湖温泉街らしさを出すための案である．色彩設定グループの中で平均点が71.3と最も高い．4つぞれぞれの評価も67.0を上回っている．2Nが総合点74.7であり最も高い．

3－5　小括

ここでは，現状を含むシミュレーション22パターンに対する地域住民の評価を分析した．22パターンのなかでは，白い壁面の色彩設定が比較的評価が高かった．特に緑のテント，また緑のテントで壁面にアイヌ文様が入っているものが高かった．

しかし，5つの評価基準に対する回答傾向，総合点を見る限り，設定色彩を再検討すべきである．

4．外観デザインの試案

3の色彩シミュレーション結果を踏まえ，基本コンセプトを設定し修景案を作成することにした．

4－1　提案のための基本的考え方

対象地域の周辺は森に囲まれれ非都会的だが，「懐かしい田舎」という訳ではない．普段馴染みのないアイヌの文化の残る土地は訪れた人々に異国を訪れたような感覚を与える．幸運の森商店街はまるで森の中を散策しているような雰囲気で買い物ができる商店街とする．具体的手法は次の通りである．

(1)店内の照明には電球色の裸電球を吊り下げる（現在の継続）．

(2)色はアースカラーを基調とする．

(3)『カラーイメージスケール』（文献4）を参考に「伝統的」「重厚」「情緒的」といった配色を意識する．

(4)天然記念物であるマリモの緑色を取り入れる．

(5)アイヌ文化を意識して赤色を取り入れる．

4－2　修景案

対象の店舗並びに対して，基本的考え方による修景案(写真2)を作成した．壁，屋根，店舗テントに対して様々な配色パターンを検討し，最終的に11パターンを作成した．壁はベージュ系（一色またはツートン），屋根は緑系と赤系，テントは茶系，緑系，赤系を基本とした．また，ボーダーラインを入れたもの，全体的に小豆色系としたものも作成した．

また3で作成したなかで高評価であった，アイヌ文

写真２
現状と修景案一覧
（p12,13,14 はストリートファニュチャーをデザイン）

様が壁にワンポイントで加わったものに，ストリートファニュチャーをデザインした案を作成した．

４−３　アンケートの実施概要

アンケート対象は３と同じ地元まちづくり団体であり，団体に修景案(注1)を郵送した．その後、地元会場に一同が集まり一案ごとに議論し，Web上で回答した（平成27年1月実施．回答者７名）(注3)．アンケートは様々な修景案にコメントをもらうものである．

４−４　分析結果

p1は「クリームイエローの色が明るすぎて阿寒湖には合わない気がする」「そろいすぎて違和感がある」「建物が2色使いならテントはグリーンにそろえた方が良い」「明るい色だと立体感が感じられない」というマイナス意見がある．p2は各建物の角に屋根と同じ緑のラインが入っている．p2はp1より「メリハリが出た(2名)」「立体感が出た（3名）」と回答された．

屋根とテントが緑系のp3，p4，p6を比較する．p3は「建物の配色にとてもあっている（3名）」「（緑は）阿寒湖のイメージカラーだと思う」というプラス意見と，「グリーンが暗い」というマイナス意見が出た．壁面がツートンカラーになっているp4は「シミのようでおかしい（2名）」「継ぎ足しした感じがぬぐえない」「必要ない」と酷評だった．ツートンカラーの色の境目にラインを入れたp6では，「意図的なのは分かるがやはり必要ない」というマイナス意見と「違う配色の方が効果的では」「配色はそのままで質感を変えるとおもしろいのでは」という新しい発想が回答された．

次に屋根が緑系でテントが茶系のp1，p2，p5，p7を比較する．p1とp2については上記の通りである．p5とp7は色を変えても変化はなく，壁面の２色はp4と同じくマイナス意見だった．

次に屋根とテントが赤系のp8，p9，p10を比較する．壁がツートンのp8は「異国の配色でかわいい」「新しい発見が出来た」というプラス意見と，「ここでも壁面の2色使いは必要ない（多数）」というマイナス意見が出た．p9は，「壁部分が立体感がなく赤系の色が際立つ感じがする」「全体的に落ち着きがなくなった感じがする」というマイナス意見である．p10のボーダーが入ると少し評価が高くなるが，「派手な感じになり阿寒湖に合わない」という意見もある．

壁が小豆色のp11は，「すこし暗い」「全体に重たい感じがする」というマイナス評価があるが，「暖色で温かい感じがする(3名）」という意見もある．

アイヌ文様の入ったp12・p13はともに「すっきり」した感じが高評価である．p12は緑のテントが阿寒湖らしさ，明るさを感じさせている．p13は「通り全体が同じ色調になると茶色は重たい感じがする」という意見がある．歩道周りには「プランターやベンチがあった方が良い」「もっと樹木があった方が良い」という意見がある．

ストリートファニュチャーを都会風にしたp14は，「スッキリしていておしゃれな感じがする」という意見も見られるが，「温泉街の雰囲気がなくなった感じがする」「街のストリートみたいで阿寒湖のイメージではない」というマイナス意見がある．

5．総括

本報告では，まず阿寒湖温泉市街地の商店街に関して，景観の統一性，連続性を意識し色彩シミュレーションを行った．白い壁面，緑のテント，壁面にアイヌ文様が入っているものが比較的評価が高かった．

続いて，基本コンセプトを設定し，複数の外観デザインの修景案を提示し意見を求めた．比較的評価の高い案は提示できたが，地元住民の合意は得られなかった．基本コンセプト設定の段階から住民意見を聞き，外観デザインを検討できていないことが要因と思われる．住民を交えた検討会を複数回実施する必要がある．

注釈

(注1)修景案はカラーマッチングしたものを郵送している．

(注 2)総合点は以下のように算出する．

$$\text{総合点} = \frac{A\times a + B\times b + C\times c + D\times d + E\times e}{X\times 4}\times 100$$

A, B, C, D, E：回答者ごとの評価基準の重視度合（1〜4）
a, b, c, d, e：回答者ごとの評価基準に対する評点（1〜4）
X：重視度合の合計

(注3)当初は，地元で関係者に直接説明し議論する予定であった．当日悪天候のため急遽ネットでのアンケート方式に切り替えた．

参考文献

1）北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所「阿寒国立公園阿寒地域管理計画書」2006年1月

2）環境省釧路自然環境事務所「阿寒湖温泉らしい景観づくりガイドライン」2011年3月

3）佐藤 捺美「釧路市景観計画に関わる色彩ガイドライン策定のための調査研究」（2010年度釧路高専卒業論文）

4）小林重順「カラーイメージスケール」講談社

5）舘田彩「阿寒湖温泉地域における商店街の修景に関する提案的研究」（2013年度釧路高専卒業論文）

6）福崎圭都「阿寒湖温泉商店街における外観デザインの景観整備方針と基準づくり」（2014年度釧路高専卒業論文）